

自然に学ぶ (5)

自然道宗家

三戸唯裕

—自然は嘘をつかない—

すっかり若者の街になった渋谷の夕暮れを、スペイン通りからパルコへと歩いてみました。新しいファッションビルが次々と現れて「人」も溢れ「物」も溢れ目まぐるしく移り変っている様がある外国人は「豊かにして貧しき日本人」と評しました。

溢れる「物」は年ごとにニューフェイスが登場し、手を変え品を変えの宣伝文句で迫って来ます。「真実は一つしかない」ということを忘れた「人」は自ら思索することを忘れ移ろい易い性格に変貌してしまいました。ひとつの「物」を大切に永年愛用し続ける、というパターンが消えたのは「物」自体にも責任があつて永年愛用して行くには耐えない「物」だからということも言えますでしょう。

そこに「本物」と「贗物」の差があるのではないでしょうか。その差を見抜く確かな目を養って行くのが教養なのです。

「本物」であるか「贗物」であるかを瞬間に見分けるのは大変ですが自然の時の流れはその差を鮮かに証明してくれています。何故ならば自然は嘘の介入を許さない厳しさを秘めていますから。

そしてその中に文化という人

間の営みを包み込んで数百年、数千年後の今日までその存在理由を誇って生き続けているからです。

梅干



ブドウ酒



紬の着物



25000



自然の年月が教えてくれる
本物の良さ



手織の紬を想い出して下さい。紬は買った当初よりも年月をかけ愛用すればする程、紬本来の光沢を増し、身に馴染んで愛着が増すものです。これは紬が本物だからこそなのです。

祖母様からのおさがりをこのように大切に次の世代に譲渡して行く人こそ本当のエレガンスを身につけた人と言えるのではないのでしょうか。

葡萄酒にしても味噌、梅干にしても同じことです。その作り方が本物であれば年月を経るほどまろやかな風味を増し美味を加えてきます。

美容料にしても同じことが言えます。

「年月を経たものは使用できません」というものは本物とは言えません。(油性品は別)

永い年月置けば置く程美容効果が上がりに永年に渡って使えば使う程美しさが増す肌になる美容料こそ本物と言えますでしょう。ですから「25000」は最低一年は熟成させて下さい、と申し上げております。

子から孫に、譲渡して行ける愛用の美容料をお使いの皆さまはその美容文化を誇りにしてお子様へ譲渡して下さい。

本物を見抜く目とその価値を理解して大切に使い熟せる人になって下さい。

安っぽい贗物を取り変え使い捨てて生きて行く人は、やがてその人自身の人生をも捨てる事になりはしないでしょうか。

自然の歳月こそ「物」や「人」の真・贗を鮮かに証明して見せてくれる何よりの先生なのです。